

令和 4 年度

石川県学校図書館研究大会 野々市白山大会

学習指導案

野々市市立富陽小学校



オンデマンド授業公開 令和 4 年 10 月 18 日(火)～10 月 21 日(金)

学習指導案集 目次

1. 研究概要

2. 指導案と助言

(1) 1年2組国語科学習指導案

うみの生き物図鑑を作ってびっくりを伝えよう

(教材名)「うみのかくれんぼ」

授業者 伊藤 大悟

(2) 2年3組生活科学習指導案

みんなでつかうまちのしせつ ～もっと知りたい! みんなのカレード～

授業者 木坂 伸子

(3) 3年3組国語科学習指導案

食べ物へんしん説明文を書いて、おうちの人に説明しよう

(教材名)「食べ物のひみつを教えます」

授業者 田原 明

(4) 4年1組社会科学習指導案

地震からくらしを守る

授業者 伊藤 優子

(5) 5年5組社会科学習指導案

水産業のさかんな地域

授業者 岩泉 季生

(6) 6年3組国語科学習指導案

筆者の論の進め方や表現の工夫について、分かったことや考えたことをまとめよう

(教材名)「『鳥獣戯画』を読む」

授業者 中川 輝陽

3. 富陽小学校図書館利用年間計画

1年2組 国語科学習指導案

日 時：令和4年 9月14日（水）第2限

授業者：伊藤 大悟

場 所：1階1年2組教室

1. 単元名 うみの生き物図鑑を作ってびっくりを伝えよう

（教材名）「うみのかくれんぼ」

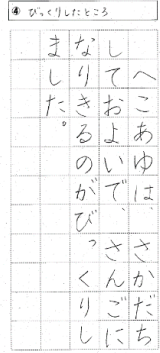
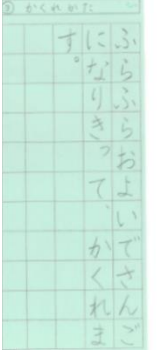
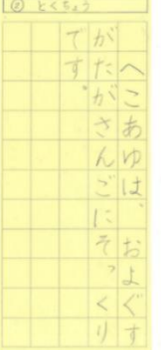
2. 単元の目標

- ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 【知識及び技能】(2)ア
- ・事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)ア
- ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)ウ
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3. 単元で取り上げる言語活動と評価規準

- ・「うみのかくれんぼ」を学習していく中で、海の生き物が隠れている場所や体の特徴、隠れ方がその順番で説明されていることを知り、自分が調べた海の生き物について図鑑を作る。

②「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ


①「読むこと」において、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	① 「読むこと」において、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア ② 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ	① 進んで、文章の中の重要な語や文を考えて選び、学習の見通しをもって分かったことを話そうとしている。

4. 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、1学期に学習した「くちばし」に続く、2つ目の説明的な文章である。「なにが、どのようにかくれているのでしょうか」という問いかけに着目して読むことで、「はまぐり」「たこ」「もくずしよい」の3種類の海の生き物が隠れている場所、体の特徴、隠れ方が読みやすくなるように工夫された構成になっている。また、それぞれの生き物について書かれた段落は、同じような段落構成になっているため、事柄の順序が分かりやすくなっている。そのため、文章の構成を学習しながら、3種類の生き物を比べ、「どのように」という、隠れ方の違いに目を向けさせていくことができる。

教科書の本文には、写真が効果的に使われており、3枚並べることで動画のように順を追って見るができる。写真と文章を重ねて読むと分かりやすい文章なので、児童は、隠れている海の生き物を探すような気持ちで、たいへん興味深い隠れ方をしていることにびっくりしながら、楽しく「生き物見つけ」をして読むことができる。

本単元で取り組む言語活動は、「ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動」を具体化し、文章の中の重要な語や文を考え、選び出すことを目標に進める。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでにひらがなの読み書きを中心に学習してきた。また、「ぶんをつくろう」で、「～が～する。」という文を書き、主語と述語の関係や簡単な助詞の使い方を学習してきた。

1学期には、児童にとって初めての説明的文章となる「くちばし」において、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉える学習をしてきた。しかし、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことが、十分に身に付いているとは言えない。また、「わけをはなそう」では、自分の思いを理由とともに伝えることでより相手に分かりやすく伝えられることを学んできた。

多くの児童は、自分の考えを話すことが好きである。一方で、友達の考えから自分の考えを広げたり、深めたりすることは十分ではない。また、語句の習得にも個人差があり、文章になると、言葉のまとまりを捉えながら読み進めることが難しい児童もいる。

これまで児童は、「くちばし」の単元でオクリンクを活用して学習した。くちばしの絵をオクリンク上で描かせて見合うことで、文章の内容から正しく描かれているくちばしはどれかを考え、それぞれのくちばしの特徴の違いを捉えることができた。

(3) 指導観 「情報活用能力育成×ICT活用」の授業づくり

重点1 情報活用能力を育むための ICT 活用

- ・情報を整理・分析するための工夫

本単元では、オクリンクに海の絵と生き物を用意し、生き物が隠れている場所を確認する活動を行うことで、分かったことを説明できるようにする。また、学びを深める活動として、単元の始めに、海の生き物が実際に動いたり、隠れたりする様子を動画で視聴し、静止画だけでは伝わらないすごさや驚きを味わわせる。

本時では、オクリンクを操作しながら、生き物が隠れている場所を自分の言葉を交えながら説明させることで、1文目に書かれている内容を捉えることができるようになるのではないかと考える。

重点2 根拠を明確にして表現するための工夫

本時のねらい： 事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。

A 根拠をみつける

<ねらいに即したゴールの姿(着地点)>

1ぶんめには、なにがどこにかくれているか、かいてある。

- ・全文シートの活用

教科書の本文を生き物ごとに縦に並べたワークシートを使用し、色を分けて線を引かせる。本時では、各生き物の1文目に着目させることで、1文目で重要な語となる生き物の名前と生き物が隠れている場所を見つけることが容易になると考えられる。

(板書計画)

うみのかくれんぼ

「1ぶんめにはなにがかいてあるのかな」

うみのかくれんぼ

なにが、どのようにかくれているのでしょうか。

	はまぐり	たこ	もぐずし
はまぐり	すなのなかにかくれています。	すなのなかにかくれています。	すなのなかにかくれています。
たこ	あしをのばして、すばやくもぐってかくれます。	あしをのばして、すばやくもぐってかくれます。	あしをのばして、すばやくもぐってかくれます。
もぐずし	あしをのばして、すばやくもぐってかくれます。	あしをのばして、すばやくもぐってかくれます。	あしをのばして、すばやくもぐってかくれます。

すなのなか

うみのそこ

ふかいところ

かいそうがはえて

いる

いわのちかく

ま

1ぶんめには、なにがどこにかくれているか、かいてある。

5. 指導と評価の計画（総時数8時間）

●研究にかかわる手立て □評価

次	学習活動	指導（・）と評価（【□】）
第一次 （1）	<どんながくしゅうをするのかな> 「うみのかくれんぼ」をべんきょうして、じぶんだけのうみのいきものずかんをつくるんだね。 《うみのいきものずかんをつくって、びっくりをつたえよう》	- いくつかの海の生き物を見せて、海の生き物に対する興味をもたせる。 - 海の生き物に関する本をいくつか準備しておく。
第二次 （4）	<どんなことがかいてあるかな> はまぐり、たこ、もくずしよいがうみのなかにかくれていることがわかった。 <1ぶんめにはなにがかいてあるのかな>（本時） 1ぶんめには、なにがどこにかくれているか、かいてある。 <2ぶんめにはなにがかいてあるのかな> 2ぶんめにはからだのとくちょうがかいてある。 <3ぶんめにはなにがかいてあるのかな> 3ぶんめにはかくれかたがかいてある。	「とい」に対して「こたえ」が3つあることを確認するために、既習の説明文の構成を振り返る。 - 色々な事柄を取り上げながら、内容の大体を捉える。 ●海の生き物に対する興味を持たせるために、生き物の動画を見せる。 - 文章構成をつかむため、ワークシートのそれぞれの生き物の1文目に線を引く。 ●場所について理解を深めるため、オクリンクに教科書の生き物、自分が図鑑に書く生き物の「場所」の印をつけさせる。 【知・技】①(2)ア（発言、ワークシート） 【思・判・表】①C(1)ア（発言、オクリンク） - 文章構成をつかむため、ワークシートのそれぞれの生き物の2文目、3文目に線を引く。
第三次 （3）	<びっくりしたことはどんなことかな> へこあゆは、さかだちしておよいで、さんごになりきるのがびっくりしました。 <うみのいきものずかんをつくらう> へこあゆのずかんをきょうかしよとおなじじゅんばんでつくることができた。わたしがびっくりした、へこあゆがさんごになりきることをともだちにつたえたい。 <じぶんのずかんのびっくりをしようかいしよう> いろいろなかくれかたをするいきものがあることがわかったよ。 ともだちのびっくりしたところがわかったよ。	- 自分のびっくりとその理由を話し合う時間にし、次の時間に、その学習を受けて自分の選んだ生き物のびっくりを選ばせる。 - 今まで学んだ文章構成を生かせるようにするために、授業の冒頭に振り返り、図鑑の書き方の見通しを再度確認する。 【思・判・表】②C(1)ウ（発言、ワークシート） 【主】①（発言、態度） - 友達が選んだ生き物の隠れ方が、教科書のどの生き物と似ているか考えながら発表を聞かせる。

6. 本時の学習（第二次中2時）

（1）ねらい

事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）ア

（2）準備 挿絵、電子黒板、ワークシート、Chromebook（オクリンク上の、海の断面図のイラスト）、 選んだ生き物の本のコピー

（3）展開

●研究にかかわる手立て

時	主な学習活動（○発問）と児童の意識の流れ（・思考）	指導（・）と評価（ 【 】 ）※C→B への手立て
5	1. 課題をつかむ ○くちばしの文章にはどんなことが書いてあったかな。 ・「かたち」「とい」「こたえ」「つかもいかた」「えさ」が書いてあったよ。 ○うみのかくれんぼには何が書いてあるのかな。 ・生き物の隠れている場所や隠れ方が書いてあったよ。 ・もっと詳しく読みたいな。	・説明文の文章構成を想起させ、本時から説明文の「とい」に対する「こたえ」を探していくことを意識させる。
10	＜1 ぶんめにはなにがかいてあるのかな＞ 2. 自分の考えをもつ ○うみのかくれんぼの1文目には何が書いてあったかな。 ・「はまぐり」「たこ」「もくずしよい」がでてきたよ。 ・海の生き物の名前だよ。 ・全部の文章に「かくれています。」と書いてあるよ。 ・生き物がどこに隠れているか書いてあるよ。 ・はまぐりは、砂の中にいる。 ・たこは、海の底にいる。 ・もくずしよいは、岩の近くにいます。 ・生き物が隠れている場所が書いてあるよ。 ○それぞれの生き物がどこに隠れているのか生き物のイラストを動かそう。	・3つの生き物の文章を比較しやすいように、縦に並べた本文の1文目を囲ませる。 ・生き物が隠れている場所に線を引かせ、線が引けているか確認するために、黒板に、拡大したワークシートを提示する。
10	3. 考えを交流する ○みんながどこに動かしたか見てみよう。どうしてここのかな。 ・はまぐりは、砂の中と書いてあるから。 ・波が来るところの砂の中だよ。 ・たこは、海の底と書いてあるから。 ・海のとても深いところだよ。 ・僕が潜って行くことが出来ないところ。 ・もくずしよいは、岩の近くと書いてあるから。 ・岩のところには、海藻が生えているよ。 ○1文目に何が書かれていたかワークシートに書いてみよう。	【思・判・表】① 事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。 C（1）ア（発言、オクリンク） ※生き物をどこに動かしてよいか分からない場合は、海の絵を見て、砂の中、海の底、岩の意味を確認する。
5	4. まとめる 1 ぶんめには、なにがどこにかくれているか、かいてある。	・本時で学習したことが明確になるように、1文目に取り上げられている事柄を確認し、ワークシートに書き込ませる。
15	5. 深める ○自分が図鑑に書く生き物は、どこに隠れているかな。 ・砂の中、海の底、岩の近くにいたよ。 ○自分が図鑑に書く生き物の場所に印をつけてみよう。 ・はまぐりの近く、たこの近く、もくずしよいの近くにいたよ。 ・生き物図鑑で場所が書けそうだね。	・場所についての理解を深めるため、自分の経験や知識を結び付けて考えさせる。 ●自分が作る図鑑の見通しを持たせるために、自分が調べた生き物がどこにいるか、オクリンクで印をつけさせる。

（１）重点１ 情報活用能力を育むための ICT 活用

・読み取ったことを絵で表し、オクリンクで共有することで考えを表現するために役立った

海の生き物がどこに隠れているかをオクリンク上で操作させ共有した。言葉だけのやり取りで終わらず、視覚的なツールを使うことで全員が自分の考えを表現することができた。電子黒板に映すだけでなく、映し出された自分の考えを指差ししながら話し合うことができれば、叙述に書かれている内容を自分の言葉で説明することにつながり、より ICT の有効性が感じられたのではないかな。

・友達のと比べ合える ICT の活用方法が必要である

オクリンクを使って、イラストで描いた自分の考えを提出させた後、電子黒板に児童全員の考えを一覧で映した。しかし、一つ一つが小さかったため友達のと自分の考えを見比べることが困難だった。友達のと自分の Chromebook でも見られるようにするなど、自分とは違う考えに気付けるようにするとよかった。そうすることで自然な発言が生まれ、本文の正しい解釈につながる話し合いがより活発になったのではないかな。

（２）重点２ 根拠を明確にして表現するための工夫

・児童の発言に問い返すことで根拠を明確にできる

児童の考えをより多く引き出すために、児童の発言を教師が解釈するのではなく、「なぜそう思ったの？」「～ってどういう意味？」と問い返すとよかった。そうすることで、教師と児童の対一のやり取りではなく、児童同士の会話が広がり話し合いが充実するのではないかな。

・図鑑から必要な情報を取り出すための手がかりを指導することが重要である

教科書に準じた構成の図鑑では、児童は自分が選んだ生き物が隠れている場所の文を見つけやすかったようだ。しかし、そうでない図鑑からは隠れている場所の文をなかなか見つけられない児童もいた。自分が選んだ生き物の図鑑を読む際には、児童全員が今日の学びを実感できるような手立てが必要だった。図鑑を使って学習するのは初めてだったので、ヒントの言葉を全体で確認するなど、探す手がかりを与えることが必要であった。

・動画や静止画から得た情報と教科書の情報を照合させる問いかけによって言葉の理解が深まる

事前に視聴した映像の印象が強く、生き物が隠れている場所を本文と繋げずに考える児童もいた。そんなときは、教科書にもどり、正しい場所はどこなのか叙述をもとに話し合う必要があった。語彙の少ない一年生の児童にとっては分かりづらい言葉もあるため、複数の児童に説明させることで聞いている児童の理解に繋げていくとよい。

（３）その他

・学習規律の定着によって多くの活動が行えた

学習規律が定着しており児童がきびきびと動いていたため、時間内に多くの活動を行いながら学習することができた。

2年3組 生活科学学習指導案

日 時：令和4年9月22日（木）第5限

授業者：木坂 伸子

場 所：2階2年3組教室

1. 単元名 みんなでつかうまちのしせつ ～もっと知りたい！みんなのカレード～

2. 単元の目標

- ・公共物や公共施設の利用を通して、身の回りにはみんなで使う物があることや、それらを支えている人々がいることに気付いている。【知識及び技能】
- ・公共物や公共施設の利用を通して、公共物や公共施設のよさを感じたり、働きを捉えたりしている。【思考力、判断力、表現力等】
- ・公共物や公共施設の利用を通して、公共物や公共施設を大切にし、正しく安全に利用しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3. 評価規準について

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
公共物や公共施設を利用する活動を通して、身の回りにはみんなが使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かっている。	公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりしている。	公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらを大切にしてい、安全に気を付けて正しく利用している。

小単元における評価基準	小単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	①図書館は、幼児や高齢者、外国の人など、多様な人々が利用する施設であることに気付いている。	①学校図書館との共通点や相違点を探しながら、見学や質問をおこなっている。	①図書館への関心や期待を持ちながら、それらに関わろうとしている。
	2	②図書館について、幼児や高齢者、外国の人など多様な人々が利用しやすい工夫があることや、それを支える人がいることに気付いている。	②図書館の機能やそこで働く人の役割を予想しながら、図書館の工夫についての質問内容を考えている。	②図書館は多様な人々のくらしを豊かにしていることを実感し、これからも大切に利用しようとしている。
	3	③自分たちのクラス地域には、みんなで使うための施設があることや、それを支える人々がいることに気付いている。		

4. 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容(4)「公共物や公共施設はみんなのものであることや、それを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。」をうけて設定したものである。自分たちの住む地域にある図書館を利用したり、調べたりする活動を通して、公共施設はみんなで使うものであることや、それを支えている人々がいることに気付くとともに、繰り返し利用する中で、それらの施設に親しみや愛着をもち、大切に利用しようとする意識へとつなげていく。その公共の意識を高め、自分自身の力でよりよい生活を作り出していく態度を養っていくために最適な単元であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は1学期に「どきどき わくわく まちたんけん」の学習で、地域の公園や神社などに行き、そこにある遊具や、水飲み場などがどのような目的で設置されているのかを考える活動をおこなってきた。「みんなが楽しく遊ぶために遊具が置いてある。」「いろんな人たちが使いやすくなるようになっている。」「といった、地域みんなが使う施設の工夫に気づくことができた。

またそれらの活動を通して、身近な地域の施設を今後自分がどのように使っていくかを考えた。ただ、普段から使っている公園などの施設においては、「また行きたい」「今度行ってみたい」という自分との関わり方を考えていたが、それ以外の施設まで考えている児童は少なかった。

これまで児童は情報活用能力を育むために、「ぐんぐん育てわたしのやさい」において、育てている野菜の写真と観察した手書きの記録カードの写真を Jambord 上に貼り付けて、野菜の観察記録を残す学習をしてきた。Jambord に記録を残すことで、以前の写真と比べて成長や違いに気づくことができ、「大きくなったから支柱がある。」といった考えをもつ児童が多かった。

(3) 指導観 「情報活用能力育成×ICT 活用」の授業づくり

重点1 情報活用能力を育むための ICT 活用

- ・集まった情報から自分の考えをつくる

本単元では、カレード（地域の図書館）の見学と、見学で見つけたことを伝える際に、ICT 機器を活用する。見学時には、デジタルカメラで写真を撮って情報を集めておく。その写真の中から自分の見つけたものに合う写真を選択し、ムーブノートでスライドを作る。

本時では、教師が整理したムーブノートを資料として見ることで、カレードで見つけたものを把握し、さらなる疑問について考える。

重点2 根拠を明確にして表現するための工夫

本時のねらい： カレードについて、図書館の機能などを予想しながらもっと知りたいことを考えている。

C 根拠や理由を明確にして考えを発信する

<本時のねらいに即したゴールの姿（着地点）>

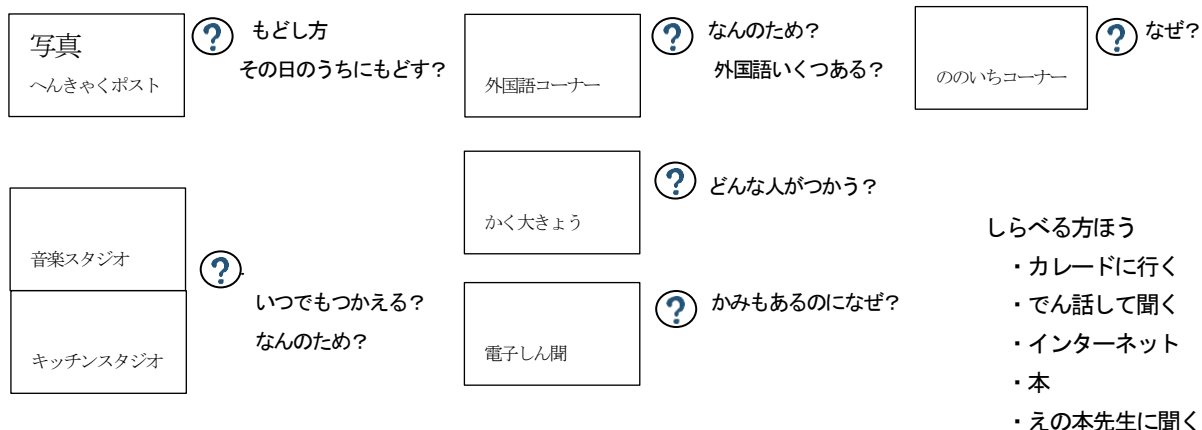
もっと確かめてみたいことがあるよ。返却ポストで返された本は、その後どうやって本棚に戻されているのな。学校と同じように種類ごとに分けてから戻しているのかな。もう一回カレードに行って司書さんに聞いてみたいな。

- ・学習履歴の活用

見学時の写真や数字（冊数や人数、台数など）を学習履歴に残し、掲示しておく。それらをもとにすることで、「〇万冊あるから・・・」などより具体的に予想を立てたり疑問を考えたり話したりできるのではないかと考える。

(板書計画)

<カレードについて もっと知りたいことはどんなことかな>



5. 指導と評価の計画（総時数7時間）

●研究にかかわる手立て □記録に残す評価

次	学習活動	指導（・）と評価（□）
第一次 (3)	＜カレードはどんなところかな＞ カレードは地域の人たちが使う大きな図書館で、たくさん本があるところだよ。学校の図書館と似ているところもあるだろうけど、違うところがたくさんありそうだね。 ＜どんな「すごい」があるのか見つけよう＞ カレード見学（2時間） カレードは地域のたくさんの人たちが使っているよ。小さな子どもからお年寄りまで、いろんな人が来るから、本の数も種類も多いんだね。21万冊もあってすごいよ。カレードは、地域の人たちみんなが使いやすい自動貸出機や自動で消毒する機械などがあってすごかったよ。本以外のための場所もあったよ。	・カレードがどんなところか、なんのために行くのかを確認するために、児童の経験や、学校の図書館との比較を促す。 ・どんな人が利用しているか、どんな工夫をしているかに目を向けるために、学校の図書館とのちがいに目を向けさせる。 【知・技】①（発言・ワークシート） 【思・判・表】①（発言・ワークシート） 【主】①（発言、振り返り）
第二次 (3)	＜カレードにはどんな「すごい」があったかのかな＞ カレードの「すごい」をたくさん見つけることができたよ。誰でも使える自動の機械があったり、大きなブックタワーがあったり、すごいものがいっぱいあったよ。使う人に気持ちよく使ってもらうための工夫なのかな。 ＜カレードについて もっと知りたいことはどんなことかな＞（本時） もっと確かめてみたいことがあるよ。返却ポストで返された本は、その後どうやって本棚に戻されているのな。学校と同じように種類ごとに分けてから戻しているのかな。もう一回カレードに行ったら司書さんに聞いてみたいな。 ＜知りたいことについて調べよう＞ 調べてみて、〇〇についてもっとくわしく分かったよ。～～だから・・・なんだね。	・カレードで見つけたものを共有するために、ムーブノートでスライドを作らせる。 ・疑問点を生み出すために、ムーブノートのスライドを見ながら考えさせる。 ・カレードについての疑問を解決させるために、あらかじめカレードの司書からの回答を用意しておく。他にも本の用意や学校司書の協力を得る。 【知・技】②（発言・ムーブノート） 【思・判・表】②（発言・ワークシート） 【主】②（発言、振り返り）
第三次 (1)	＜みんなでつかう施設は、ほかにどんな場所があるかな＞ 公民館や児童館、スポーツランドがあった。みんなが使う場所だから、その場所のルールを守って、楽しくつかいたい。	・地域の公共施設に目を向けさせるために、図書館とカレードのように、学校の施設と似ている公共施設がないか問いかける。 【知・技】③（発言、振り返り）

6. 本時の学習（第二次中2時）

（1）ねらい カレードについて、図書館の機能などを予想しながらもっと知りたいことを考えている。

〔思考・判断・表現〕

（2）準備 Chromebook 見学の写真

（3）展開

●研究に関わる手立て

時	主な学習活動（○発問）と児童の意識の流れ（・思考）	指導（・）と評価（【 】）※C→Bへの手立て
10	1. 課題をつかむ ○カレード見学でたくさんのものを見つけましたね。 ・入口に返却ポストがありました。 ・10冊を2週間借りられます。 ・キッチンスタジオがありました。 ・予約本コーナーがありました。 ・自動で本を消毒する機械がありました。 ○見学に行っても分からなかったことやもっと知りたくなったことはないかな。 ＜カレードについて もっと知りたいことはどんなことかな＞	・カレードで見つけたものを思い出させるために、学習履歴に目を向けさせて確認する。 ・どんなことを考えればよいかつかませるために、疑問の例を出す。
10	2. 自分の考えをもつ ・どうして・・・ ・どうやって・・・ ・なんのために・・・	●疑問を考えさせるために、各自ムーブノートを見ながら考える。自分が選んだもの（スライド）以外のものでもよいことを伝える。
15	3. 考えを交流し、深める ・返却ポストで返された本は、その後どうやって本棚に戻されているのかな。 ・図書館なのにどうして料理や音楽の部屋があるのか知りたいです。 ・どうして外国語の本のコーナーがあるのかな。 ・1日に2200冊も返ってくる本は、その日のうちに本棚に戻るのかな。 ○調べるにはどんな方法があるかな ・もう一回見学に行く。 ・電話して聞く。 ・インターネットや本で調べる。 ・榎本先生に聞いてみる。	・児童の発言を疑問に結びつけるために、問い返しの工夫をする。 ・児童から出た疑問について確かめたいという気持ちを高めるために、「どうしてだと思う？」など問い返して答えを予想させる。 ・疑問を解決するにはどんな方法があるかを考えさせ、次時の見通しを持たせる。
10	4. ふりかえりをする もっと確かめてみたいことがあるよ。返却ポストで返された本は、その後どうやって本棚に戻されているのかな。学校と同じように種類ごとに分けてから戻しているのかな。もう一回カレードに行ったら司書さんに聞いてみたい。	【思・判・表】 図書館の機能やそこで働く人の役割を予想しながら、図書館の工夫についての質問内容を考えている。 （発言・ワークシート） ※疑問が自分で思いつかない場合は、友達のことを聞いて、その中から選んでもよいことを伝える。

指導・助言（金城大学 中條 敏江 氏より）

（1）重点1 情報活用能力を育むためのICT活用

・スムーズなICT活用のための準備がよかった

授業でICTを活用するには、機器を起動する時間やページを開く時間を削減する必要があるため、授業前の準備が大切である。本時では、授業を始める前にページを開いて準備してあったので、スムーズに活用し、児童の思考時間を確保できていた。

・前時の履歴を手元で見ながらのムーブノートの活用によって、自分事として思考できた

本時では、前時の授業で使用した学習履歴の画像をムーブノートにまとめて児童に見せていた。児童はそれを見て喜ぶとともに、大変意欲的に考えることができた。学習履歴に前時の児童の意見を簡単なコメントに書かれていたため、画像だけより、どの児童にも分かりやすかったようだ。板書で提示できなかった内容については、ムーブノートで見ることができたため、一人ひとりが「自分のもの」という実感をもって操作ができた。ただ、考えがなかなか持てない児童にとっては、履歴のスライドが多く、迷う様子も見られた。児童がスライドの量に慣れたり、操作をよりスムーズに行ったりするために、ムーブノートを使った学習の経験を増やすと効果的な授業になると思われる。

・個々のこだわりを大事にするか、考えを共有させるかによって画像を使い分けると良い

本時のムーブノートは、教師が準備した写真を見て考えさせていた。事前に取材したときに児童が自分たちで撮った写真を使うと児童の意欲付けやこだわりに対応できる。しかし、本時のように考えを全体で共有するときは、同じ写真を見て伝え合いをした方が分かりやすく良いので、目的に応じて使い分けると良い。

（2）重点2 根拠を明確にして表現するための工夫

・「why」の問い返しと予想によって児童の疑問の根拠が明確になる

本時では、児童の考えた疑問がなかなか深まらなかったが、根拠が弱いことに起因したと思われる。浅い疑問を深めるためには、教師は「what」ではなく、「why」で問い返すと良い。出た疑問について予想させ、「なぜそう思ったの？」と問い返すことで、そこから図書館の機能や働く人の工夫につなげることができる。問い返しを具体的にイメージできるようにするためにも、児童の予想を指導案に記載することで、問い返しにも想定し対応しやすい。

（例）C：外国語の本は何か国語あるのかな？20か国とか、たくさんありそう。

T：なぜそう思ったの？

C:いろいろな外国の人に図書館に来てもらいたいから。いろいろな国のことを知ってほしいから。

・交流の前後で、考えの根拠の明確さに変容を持たせるためには深める事項を絞ると良い

本時では、交流の時間に教師が何を求めているのかが明確でなかったために単調な流れになっていた。個人の考えが授業の最初と最後で変容するように、交流で深めることを焦点化しておくが良い。また、次時へのつながりや目的を共有し、個人の疑問を2、3個に絞っておくと良い。

また、導入時に、前時に出た児童が一番気になっている返却ポストと予約本コーナーの2つの疑問を取り上げ、掘り下げ過ぎたことで、その2つの疑問だけが先に深まってしまった。そのため、交流の前後での深まりが浅くなってしまった。本時の場合は、導入では児童の疑問をあまり深く取り上げずあっさりと流し、後半にじっくりと取り上げたら良かった。導入は「課題とゴールをはっきりさせる時間」、交流は「根拠を明確にし深める時間」と役割を明確にして本時を構成すると良い。

3年3組 国語科学習指導案

日 時：令和4年 9月28日（水）第5限

授業者：田原 明

場 所：2階3年3組教室

1. 単元名 食べ物へんしん説明文を書いて、おうちの人に説明しよう
(教材名)「食べ物のひみつを教えます」

2. 単元の目標

- ・比較や分類の仕方、事典の使い方を理解し使うことができる。【知識及び技能】(2) イ
- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】B (1) ウ
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3. 単元で取り上げる言語活動と評価規準

- ・すがたをかえて食品になる材料について調べたことをまとめて、説明する文章を書く。

家で毎日わたしはお米を炊いて食べています。しかし、お米は想像以上に様々な食品にすがたを変えているのです。

よく知られていると思うのはおもちです。おもちも、もち米という米をむして、うすしきねでつくって、できあがります。

次に、米粉パンにもすがたを変えています。米を粉にして、粉から生地をつくり、焼きあげるとで米粉パンになります。

これらの他に、こうじを使って発酵させることで作られる日本酒もあります。化学反応で高アルコールの日本酒ができます。

このように、米は様々なすがたにへんしんしています。わたしは、たまに、食べるこれも米からできているのかと、もとの形から大きくすがたをかえている食品の多さにびっくりしました。

① 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。B (1) ウ

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比較や分類の仕方、事典の使い方を理解している。(2) イ	① 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。B (1) ウ	① 進んで、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、調べたことをまとめて説明する文章を書こうとしている。

4. 指導にあたって

(1) 教材観

第3学年「仕事のくふう、見つけたよ」では、報告する文章の組み立てについて学習してきた。身の回りにある仕事の中から、自分が調べたい仕事を選び、本で調べたり、人に聞いたりして、伝えたいことは内容のまとまりに分けて報告する文章を書いた。この学習を通して、調べて分かったことと考えたことを区別して文章を書く力が身に付いた。

本教材「食べ物のひみつを教えます」で題材として取り上げる食品については、事典で調べる必要があり、多くの加工食品を比較したり、分類したりして伝えたいことを明確にする必要がある。また、自分の考えについて事例を挙げて説明するには、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する必要がある。そのため、本教材は、食品になる材料について調べて、自分の伝えたいことを伝えるために必要な事例を整理し、書き表し方を工夫して説明する文章を書く力を付けるのに適した教材であると考え

る。他教科との関連においては、本単元で学習したことは、社会や理科などで自ら調べたことをまとめたり、考えを発信したりする際に役立つと考える。

(2) 児童観

「鳥になったきょうりゅうの話」や「引用するとき」において、事典や図鑑の使い方や引用の仕方を学習してきた。事典や図鑑の使い方においては、目次や索引を使うことのよさを実感し、それらを使って、知りたい情報を見つけることができる。引用においては、説得力をもたせるために出典を明らかにすることは理解しているが、文章をそのまま抜き出すことには、まだ課題が見られる。

「B 書くこと」指導事項ウについては、「引用するとき」において学習した。しかし、引用した文章と自分が書いた部分とははっきりと区別することが、まだ十分に身に付いているとは言えない。

国語科の学習では、学習計画をもとに進めることで、多くの児童が見通しを持って授業にのぞむことができている。自分の考えを伝えるとき、理由や根拠を示すことがだいたいの児童に根付いている。

3年生では、Chromebook を使って課題を見つけたり情報を集めたりする場面で活用してきた。「こまを楽しむ」では、本文に線を引くことで、文章構成を視覚的にもとらえた。また、理科や社会科においても、学校のまわりでは見られない生き物や、市の様子についての情報を集めた。根拠を明確にして表現させるために、叙述から登場人物の気持ちを考えたり、説明しているこまと対応する写真を、本文を根拠にして考えさせたりしてきた。今後も、全員が取り組めて理解につながるよう、効果的に ICT 機器を活用していきたい。

(3) 指導観 「情報活用能力育成×ICT 活用」の授業づくり

重点1 情報活用能力を育むための ICT 活用

- ・情報を整理・分析するための工夫

本単元では、自分が調べた食材の食品と工夫を Jamboard 上で整理して説明文を書く。出来上がった説明文は、毎日ご飯を用意してくれるおうちの人に向けて説明する。

本時では、取り上げた食材について、自分の考えを伝えるための効果的な事例について Jamboard で整理していく。視覚的に情報を整理することで、説明文で取り上げる事例の順序についても整理しやすくなると考える。

重点2 根拠を明確にして表現するための工夫

本時のねらい：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

B 根拠や理由を整理・分析する

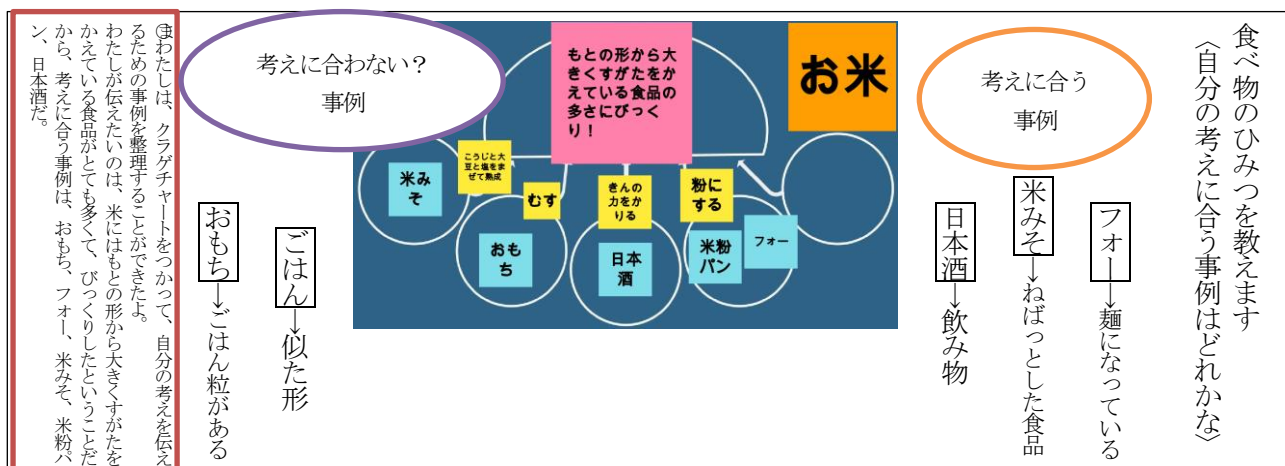
<ねらいに即したゴールの姿(着地点)>

わたしは、クラゲチャートをつかって、自分の考えを伝えるための事例を整理することができたよ。わたしが伝えたいのは、米にはもとの形から大きくすがたをかえている食品がと多くて、びっくりしたということだから、考えに合う事例は、おもち、フォー、米みそ、米粉パン、日本酒だ。

- ・思考ツールの活用

クラゲチャートを用いて、自分の考えを伝えるために効果的な事例を整理していく。事例を取り上げる順序は、自分の考えを伝えるために適切な並びになっているか、理由が言えるようにして、説明文を書くことになげたい。

(板書計画)



5. 指導と評価の計画（総時数7時間）

●研究にかかわる手だて □評価

次	学習活動	指導（・）と評価（□）
第一次 (2)	＜どんな学習をするのかな＞ 大豆のほかにも変身している食べ物があるよ。調べて、自分でも説明文を書いてみたい。調べたことをもとに、自分が考えたことをおうちの人にも伝えたい。	・学習意欲を喚起するために、食べ物へんしんクイズを行い、すがたを変える食品に興味をもち、学習課題を立てる。
	《自分の考えが伝わる説明文を書き、 おうちの人に食べ物のへんしんについて説明しよう》	
	＜どんな食材の説明文にしようかな＞ へんしんしている食べ物がたくさんあるけど、わたしはお米にしようと思う。 なぜかという、米について調べて、もとの形から大きくすがたをかえている食品の多さにびっくりしたからです。	【知・技】①（活動観察） ・学習の見通しをつかむために、取り上げる食材を決める。その食材をなぜ取り上げたのか、その食材について調べて何を考えたか、児童に問い返すことで自分の考えをはっきりとさせた。
	＜自分の考えに合う事例はどれかな＞（本時） わたしは、クラゲチャートをつかって、自分の考えを伝えるための事例を整理することができたよ。 わたしが伝えたいのは、米にはもとの形から大きくすがたをかえている食品がとても多くて、びっくりしたということだから、考えに合う事例は、おもち、フォー、米みそ、米粉パン、日本酒だ。	●自分の伝えたいことを整理するために、Jamboard の操作の仕方を教師と確かめ、教師の考えをモデルにして事例を整理する。
第二次 (4)	＜事例は、どんな順じよで書いていこうかな＞ わたしは、もとの形から大きくすがたをかえている食品がとても多くてびっくりしたということを伝えたいから、もとの形からより近い事例から順に取り上げたよ。	【主】① （活動観察、ふり返りの記述） ・自分の伝えたいことを意識させて、事例の順序を考えさせる。
	＜自分の考えが正しく伝わるように、書けるかな＞② 自分の考えが正しく伝わるように、「はじめ」「中」「終わり」のまとまりで、「中」には、事例を書いて、説明文を書いたよ。	【思・判・表】①B（1）ウ （説明文） ・グループで、考えや考えのための事例が適切か交流する。
	＜友だちの説明文のよさは何か＞ 調べたことを通して、自分の考えをきちんと持てているところがよかったよ。 考えにそった、事例をあげているところもよかったよ。	
第三次 (1)		

6. 本時の学習（第二次中1時）

（1）ねらい

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

（2）準備

黒板上のクラゲチャート Jamboard 上のクラゲチャート 電子黒板

（3）展開

●研究に関わる手立て

時	主な学習活動（○発問）と児童の意識の流れ（・思考）	指導（・）と評価〔 【 】 〕※C→B への手立て
5	1. 課題をつかむ ・うちのの人に伝えたい食材を決めたよ。 ・この食材がすがたをかえた食品をよく食べているという驚きをつたえたいな。 ・今日は、どの事例をつかえば、自分の考えが伝わるか考えたいな。 <自分の考えに合う事例はどれかな>	・本時の学習に必要感と目的を持たせるために、言語活動モデルや学習計画を基に、課題発見を促し、一時間の見通しを意識させるようにする。
15	2. 調べたことを整理する ○クラゲチャートを使って、自分が調べた事例を整理してみましょう。 ・この食品はぜったいに事例にしたいな。 ・お母さんが知らないと思うから、これを事例にしよう。 ○先生の考えがしっかりと伝わるように事例を整理してみよう。 ・先生の考えだったら、意外な食品を事例にしたらいいなと思うな。 ・米の形をしていないものを事例にしたらいいな。 ・みんな知っているものより、知らないものを事例にした方が、驚きが伝わると思うよ。 ・自分が整理した事例で、考えはきちんと伝わるかな。 ・ちょっと友だちの意見も聞きたいな。	・付箋の色を食材、自分の考え、工夫、食品で色分けさせる。 ●自分の伝えたいことを整理するために、Jamboard の操作の仕方を教師と確かめ、事例を整理する。 ・事例を比較検討できるよう、様々な事例を黒板上に用意しておく。 ・事例の整理について見通しをもつために、黒板上のクラゲチャートを使って、教師の考えを効果的に伝える事例を思考・操作させる。 ・スムーズに交流に移れるよう、事前に交流するグループを決めておく。 ●友だちのクラゲチャートを共有するため classroom を使って、考えを交流する。
15	3. 考えを交流し、深める ○事例は自分の考えに合ったものになっているか交流してみよう。 ・友だちのアドバイスで事例をかえたよ。 ・考えにふさわしい事例だと言ってもらえて自信がもてたよ。	【思・判・表】①自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。B（1）ウ（Jamboard） ※自分の考えを再度確認させて、一緒に検討する。
10	4. まとめと振り返りをする わたしは、クラゲチャートをつかって、自分の考えを伝えるための事例を整理することができたよ。 わたしが伝えたいのは、米にはもとの形から大きくすがたをかえている食品がとて多くて、びっくりしたということだから、考えに合う事例は、おもち、フォー、米みそ、米粉パン、日本酒だ。 ・最初、わたしは白玉を事例に挙げていたけど、もとの形から大きくすがたをかえていることを伝えたいから、事例を意外なすがたの食品にしたよ。 ・説明文で取り上げる事例を決めたから、次は、その順番をはっきりさせたいな。	【主体的に学習に取り組む態度】進んで、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、調べたことをまとめて説明する文章を書こうとしている。（ふり返りの記述） ・主体的に学習に取り組む態度が評価できるよう、視点を与えてふり返りをさせる。 ※他の事例と比較するなど、具体的に助言する。

指導・助言（石川県教育委員会 金沢教育事務所 川辺 有紀 指導主事より）

（１）重点１ 情報活用能力を育むための ICT 活用

・電子黒板で操作の手順を確かめながら授業をすすめる手立てが効果的である

児童の情報活用能力やローマ字入力スキルが育ってきている。児童は、文房具のように情報機器を扱っている。電子黒板で操作の手順を確かめながら授業をすすめる手立ても、児童の情報機器の定着につながっている。今後も教科の本質にせまるために力をつけていってほしい。

・電子黒板を使って操作を一緒に確かめたことで理解しやすかった

言葉の指示だけでなく、電子黒板を使って操作を一緒に確かめたことが、子どもたちにとって視覚的にもわかりやすく理解しやすいものになっていた。子どもたちは、慌てることなく、落ち着いて目的のページにたどり着き、スムーズに交流へと入っていた。

・リンク機能を活用することで交流がスムーズになった

個人思考の内容をグループで交流する際、Google ドライブフォルダのリンク機能を活用したことで、スムーズに友だち同士の考えを見ることができた。互いの考えを見ながら交流したことにより、話し合いが苦手な児童も意欲的に参加することができた。画面を指し示したり自分と友だちの考えを見比べたりし、新たな気づきやアドバイスを伝え合う姿が見られた。

（２）重点２ 根拠を明確にして表現するための工夫

・考えと事例との関係を明確にするための問い返しが必要だった

教師のモデルを確認する際、モデルの考えが児童に十分に伝わっていなかった。写真で示したり、「どういうことかわかるかな」と問い返したりして児童に十分に理解させた上で、教師の事例について考えれば良かった。児童が「だって、この考えにつながらないから、この事例は合わない」と言えるように課題に戻りながら、考えと事例の関係に着目させると良かった。

・端末で思考ツールを活用することで試行錯誤が容易になった

どの児童も自分の考えを持っており、何度も自分の考えに合う、事例を見直す姿が見られた。一人一台端末で思考ツールを使うことで試行錯誤が容易にできた。思考と表現を何度も行き来している姿が見られた。

（３）その他

・資質・能力の育成につながる好事例である

「すがたをかえる大豆」「食べ物のみみつを教えます」の複合単元として扱われてきたものを単一の単元として扱った。書く力、読む力、それぞれに言語活動が設定されており、指導と評価が一体化されている。資質・能力の育成につながる好事例となっている。

・考えと事例の関係を明確にできる言語活動である

考えと事例との関係を明確にできる言語活動となっている。授業者が何度も言語活動モデルを見直し作成する過程で、授業イメージが明確になった。ただ、この言語活動モデルを掲示すると、モデルに引っ張られて書いてしまい、自由な思考の妨げになることがある。言語活動モデルについては、見通しをもたせるなど必要な時に示すとよい。言語活動モデルの単元内での扱い方についても、考えるきっかけを与えてくれる実践だった。

4年1組 社会科学習指導案

日 時：令和4年 9月21日（水）第3限

授業者：伊藤 優子

場 所：2階4年1組教室

1. 単元名 地震からくらしを守る

2. 単元の目標

- ・自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動について理解することができる。
【知識及び技能】(3) ア (ア) (イ)
- ・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することができる。
【思考力、判断力、表現力等】(3) イ (ア)
- ・自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てる学習活動の中で主体的に学習問題を追究し、解決しようとする。また、学習したことから自分たちができることについて考えようとする。
【学びに向かう力、人間性等】

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。(3) ア (イ)	① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え表現している。(3) イ (ア)	① 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを年表や図表、文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。 (3) ア (ア)	② 自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、その働きを考えたり、学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして表現している。(3) イ (ア)	② 学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしている。

4. 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分されるものであり、自然災害から人々を守る活動について学習する。

ここでは、県内で過去に発生した自然災害や、その時の関係機関の協力体制などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめることを通して、自然災害から人々を守るための地域や関係機関の事前、事後の対応、協力体制について考えていく。その際、市役所の方に防災の取り組みについて聞き取る活動も入れていきたい。自分事、当事者意識を持たせるため、過去の地震災害に対して、父母や祖父母から話を聞いたり、知っている場所がどのような災害に見舞われたのか写真等で確認したりしながら学習を進めていく。

(2) 児童観

児童は、近年増えている自然災害の報道を、見たり聞いたりしてある程度の知識は持っていると思われる。しかし、それらの自然災害を身近に感じたり、避難が必要な危機意識を感じたりする経験は、日常的にはほとんどないと思われる。学校での避難訓練や集団下校訓練の際に「いつ起きるか分からない」災害に向き合う機会を設けている。4年1組31人に学習前にアンケートしたところ、下のような結果が見られた。

- | |
|--|
| ① 野々市市では、地震や洪水がこれから起こるかもしれないと思う。・・・「はい」が29人 |
| ② もし、地震や洪水が起きたら、どこにひなんするか家族で話し合っている。・・・「はい」が10人 |
| ③ 地震や洪水が起きた時のために、家族でしていることがある。・・・「はい」が2人
(記述：「防災バッグをもっている」) |
| ④ 地いきでの訓練に参加したことがある。・・・「はい」が6人 |

アンケート結果から、身近な校区でも自然災害が起こりうる可能性については想定しているようであるが、そのために家で話し合ったり、備えたりするなどしている家庭は少ない。災害を「自分事」として捉えていくことが大切だと考えた。

本学級の児童は、第4学年「ごみのしゅりと利用」等の単元において、それぞれの公共事業がどのように行われ、人々の暮らしを支えるための仕組みや設備がどうなっているかを見学・調査したり、必要な資料をもとに調べたりして、理解していくことができた。調べたことを整理し、新聞形式でまとめて地域の人々の暮らしを支えるための仕事の大切さを感じ取ることができた。

社会科の学習に興味関心を持ち、自分たちで作った学習問題に対して意欲的に学習に取り組む児童は多い。特に、児童にとってより身近である、「水はどこから」「ごみのしゅりと利用」等の学習においては、学習してきた内容を基に、自分たちにはどのようなことができるか、自分たちの生活にどう生かしていくのかしっかりとふり返ることができていた。しかし、様々な事象を根拠として考えようとする児童がいる一方、問いに対してどのように考えたら良いのかもわからない児童も見られた。また、調べた事象と事象をつなげて関連する人々の思いや願いに迫ったり、各事業を調べた内容から大まかにとらえたりすることなどができる児童は少ない。

「水はどこから」の学習では、水の流れをまとめる際に「水の循環モデル図」をグループで作成し、それを基に個人思考することができた。写真を動かしたり、矢印や言葉を使いまとめたことは、多くの児童ができていた。

(3) 指導観 「情報活用能力育成×ICT活用」の授業づくり

重点1 情報活用能力を育むためのICT活用

・情報を整理・分析するための工夫

本単元では、jamboardを使って、自分たちで予想した情報や事実として明確になった情報を整理し、それを根拠として話し合い活動に生かしていく。貼り付けた画像や付箋を動かし、情報を整理させ、そこから分かることや読み取れること、疑問や迷ったところなどを個人思考させたり共同編集機能を使ってグループでの話し合いに生かしたりする。

本時では、jamboardを使って、地震が起きたらわたしたちの生活はどうなるか、自分の考えを書いていく。地震が身近ではなく、なかなか想像がつかない児童にとっては、他の児童の考えを見ることができると、参考にできると考える。

地震が起きた後のことを豊かにイメージすることで学習問題につなげていくことができると考える。前時にも石川県の地震の年表やグラフを示したり、地震が起きた直後の被害の様子についてわかったことを書いたりしている。前時の書いたものと本時で考えたことから、学習問題を考えていく。

重点2 根拠を明確にして表現するための工夫

本時のねらい： 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

B. 根拠や理由を整理・分析する。

＜ねらいに即したゴールの姿（着地点）＞

大地震が起きたら、わたしたちは、これまで通りの生活ができなくなる。わたしたちの暮らしを守るために、誰が、どんなことをしているのか、これから調べていきたい。

- ・写真の活用…写真に写っているものから、想像させ、イメージさせる。さらに、誰が、どのようなという視点で問い返すことで、予想を促し、学習問題を追究しようとする意欲を高める。

(板書計画)

4. 指導と評価の計画（総時数 10 時間）

●研究にかかわる手立て 口記録に残す評価

次	学習活動	指導（・）と評価（【 】）
第一次（2） つかむ	＜地震が起きたらどうなるのかな＞ 地震が発生すると、様々な被害が起こる。石川県でも最近地震が増えてきている。これからも地震があるだろうから、対策が必要。	●県内で過去に起きた地震について、年表や写真を準備し、地震直後の被害にはどんなものがあるか考えさせる。 【知・技】①（jamboard・発言）
	＜地震によって、わたしたちの生活はどうなるのか＞（本時） これまで通りの生活ができなくなるから、誰かが対策をしてくれている。	●「壊れた家」や「避難所」の写真を見せ、生活がどうなるのか、自分事として考えさせる。 【主】①（jamboard・発言）
	＜地震からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのか＞	
第二次（6） 調べる	＜家庭では、どんな取り組みをしているのかな＞ 家庭では、地震に備えて避難リュックや転倒防止などの準備をしたり、災害用伝言ダイヤルや避難場所を確認したりするなどの対策をしている。	●起きる前の準備と後の対策という視点を持って、整理させる。 【知・技】①（jamboard・発言）
	＜学校や通学路では、どんな取り組みをしているのかな＞ 学校や通学路では、地震に備えて避難訓練をしたり、防災倉庫を設置したり、広域避難地域を定めたりしている。	・前時の学習と比較して考えさせる。 【思・判・表】①（ノート・発言）
	＜市役所では、どんな取り組みをしているのかな＞ 野々市市では、防災マップを作ったり、防災情報をメールで流したり、防災行政無線を日常的に使用し確認をしたりしている。また、県や国ともすぐに連絡が取れるようにしている。	・市全体では、より大きな規模での準備や対策が取られていることや県や国とも連携がとられることをおさえる。 【知・技】①（ノート・発言）
	＜市と住民は、どんな取り組みをしているのかな＞ 野々市市では、大地震が起きたときに備えて、地域の人々に自主避難の準備を働きかけたり、地域の人々と協力して避難訓練に取り組んだりしている。	・市と住民が協力することは、どちらにとっても良いことをおさえる。 【知・技】①（ノート・発言）
	＜住民どうしでは、どんな取り組みをしているのかな＞ 野々市市では、避難区防災会や防災士会による、避難訓練や地域の取り組みの情報交換を行っている。市では、この組織と協力して地域を守る活動を行っている。	●家庭、学校、市、市と住民の準備や対策についての学習をふり返らせ、何故このような取り組みが必要であるかを考えさせる。 【主】①（jamboard・発言）
第三次（2） まとめる・いかす	＜地震からくらしを守るための家庭や学校、市や地域住民の取り組みについて、まとめよう＞ 地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきた。また、今後想定される災害に対し、様々な備えをしている。	●立場は違っても共通していることを確認し、立場の違いによる役割の違いをはっきりさせる。 【知・技】②（スライド・発言）
	＜地震が起きて、学校がひなん所になった場合、自分はどうか考えよう。＞ 大地震発生後、避難所となる学校では、地域の人々や市役所の担当者と協力して、いろいろなことを想定して決めていかなくてはならない。さらに自分がやるべきこと、みんなで協力してやること、市役所の力を借りることなど、役割分担して取り組むことが大切である。	・自分一人のできること、自分が今日できることを押さえてから、考えさせる。 【思・判・表】②（発言・ノート）

5. 本時の学習（第一次中2時）

（1）ねらい

自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。〔主〕①

（2）準備 Chromebook（Jamboard の「地震が起きたらシート」）、能登半島地震の写真

（3）展開

●研究に関わる手立て

時	主な学習活動（○発問）と児童の意識の流れ（・思考）	指導（・）と評価（【 】） ※C→B への手立て
10	1. 本時の課題をつかみ、疑問をもつ。 <地震によって、わたしたちの生活はどうなるのか> ・家や建物が壊れる。 →住むところが無くなる→避難所へ行く。 食べ物は誰か持ってくれるのかな。近くの公民館に行けばいいのかな。みんな入れるのかな。 ・道路がひび割れる。 →必要な物が届かない。行きたいところに行けない。歩いていたらけがをするかも。 ・停電になる。水道が止まる。 →食べ物が腐ってしまう。暑い寒い。暗い。水が無いと生きていけない。 ・これまで通りの生活ができなくなるんだな。	・能登半島地震で壊れた家や地面がひび割れた写真を資料として見せる。 ・地震が起こると、被害が各方面に起こることに気づかせる。 ・自分事として考えられるよう、野々市市で地震が起こったと仮定して考えさせる。 ・Jamboard を使って、書かせる。
20	○これまで通りの生活ができなくなったら、その後はどうなりますか。 ・道路は直さないといけない。 ・家が住めなくなったら、避難所に行く聞いたことがある。 ・避難所って、どこなのかな。 ・誰が直したり、準備をしたりしているのかな。 ㊦これまで通りの生活ができなくなるから、誰かが対策をしてくれている。 	・グループで話し合わせ、jamboard を使って書かせる。 ・一人の力では、どうしようもないこと、そのためにどうするか、考えさせる。 ・地震が起こる前にも目を向けさせる。
10	≪わたしたちの生活を守るために、だれがどんなことをしているのかな≫ 2. 疑問から生活を守るための予想を立て、学習計画を立てる。 地震が起きる前 ・避難所に毛布など必要なものを備えておくことが大切。 ・自分たちも食べ物など必要なものを備えておくことが大切ではないかな。 ・家族で話し合いをしておかないといけないのではないかな。 地震が起きた後 ・誰かが、助けに来てくれると思う。警察とか。 ・道路を直してくれる人がいると思う。 ・他の県の人に来てくれるのかな。 ・市役所の人も何かしているのではないかな。 ・自分たちができることもあるのかな。 調べ方 ・インタビュー、本、インターネット	・写真を参考にしながら、予想を立てる。 ・「誰が」、「どのような」に注目させる。
5	3. 次時の見通しをもつ。 次の時間からは、家庭や学校でどんな備えをしているか、学習していこう。	【主】①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ※具体的な場面を想定し、考えさせる。

指導・助言（石川県教育委員会 金沢教育事務所 瀬古 雅大 指導主事より）

（１）重点１ 情報活用能力を育むための ICT 活用

・ Jamboard を活用した個人思考

本時では、「地震によって、自分のくらしがどのようになってしまうか」と「いつも通りのくらしができなくなったあと、どうしていくのか」という２つの思考場面で Jamboard を活用していた。今後は、本時のねらい達成につながる学習活動に時間をかけられるよう、学習活動の意図やねらいを明確にし、タイムマネジメントを行うとよい。

また、地震の被害と対策を関連付けて考えている児童もいたので、ウェビングマップなど思考ツールを活用する方法もあったのではないかな。

・ Jamboard を活用した集団思考

児童の意見、考えを整理し、分類、比較、関連付けなど再思考する場合も大切にしてほしい。ここでは、黒板の他、Jamboard を活用することも考えられる。本時では、教師が整理を行っていたが、今後の学習活動につながるよう、一次被害、二次被害に分けていく方法もあったのではないかな。

（２）重点２ 根拠を明確にして表現するための工夫

・ 写真を活用して思考を広げる

児童は、地震が起こったときどうするかについて聞かれた際、「自分はこうする（自助）」と考えることが多い。本時においてもそのような姿が見られた。しかし、さらに踏み込んで、「自分が助かるだけでなく、野々市に住んでいる人みんなが助かるためにはどうしたら良いか」を考えさせる必要がある。地震の被害を考える際に、野々市市の写真を提示するなどして、児童の着目する視点を町や市へと広げていくと良い。

・ 「誰にとっても良いのか」という問い返して誰のための対策かが明確になる

地震が起こるとどうなるかを考えた後、「では、どうしたらよいか」と問い返していた。児童の思考としては、「自分はどうしたらよいか」（自助）ということを考えることが多い。自分のことも大切であるが、自分の町や町に住んでいる人みんなが助かる（公助）ための視点も持たせられると良い。課題の「わたしたちのくらし」という言葉に戻ったり、児童から考えが出た際に「誰にとって良いのかな。」と問い返したりすることで、誰のための対策を考えているのかをはっきりさせていくと良い。

・ 問題発見の時間ではさらに児童の思考に沿ったまとめにすることが重要

地震が起こることで、普段通りの生活ができなくなってしまうことを、どの児童も理解していた。板書では「対策をしている」とまとめていたが、本時は問題発見の時間であったので、今後の学習の見通しをもたせた上で、児童の思考に沿ったまとめにしても良かったのではないかな。

5年5組 社会科学習指導案

日 時：令和4年 9月21日（水）第5限

授業者：岩泉 季生

場 所：3階5年5組教室

1. 単元名 水産業のさかんな地域

2. 単元の目標

- 水産業について各種資料で調べまとめることを通して、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な魚を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解することができる。【知識及び技能】(2) ア (ア) (イ) (ウ)
- 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】(2) イ (イ)
- 水産業について、予想や学習計画を立てる学習活動の中で主体的に学習問題を追究し、解決しようとする。また、学習したことを基にこれからの水産業について考えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①水産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりについて、地図帳や資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業の概要を理解している。 (2) ア (ア) (ウ)	①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。 (2) イ (イ)	①水産業について予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追及し、解決しようとしている。
②水産物の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて資料で調べて、必要な情報を集めて、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 (2) ア (イ) (ウ)	②水産業に関わる人々と消費者を関連付け、水産業が国民生活に果たす役割や水産業に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの水産業の発展について自分の考えをまとめたりして、適切に表現している。 (2) イ (ア) (イ)	②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

4. 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分されるものであり、我が国の食料生産を支える産業として水産業を取り上げる。

ここでは、水産業のさかんな地域における漁業の特徴や、漁船・漁港・市場・加工工場で働く人々の協力関係、漁業技術や養殖技術の向上、輸送方法について写真やグラフなどの各種資料をもとに学習する。また、これらの水産業に関わる人々の工夫や努力を調べて、まとめることを通して、水産業に関わる人々の工夫や努力によって、良質な水産物が消費地に届けられ、我が国の食料生産が支えられていることについて気付くことをねらいとしている。

(2) 児童観

本学級の児童は「低い土地の暮らし」において、学習問題を作成する際に、「どうして水害があるのに低い土地に住み続けるのだろうか、何か低い土地には魅力があるはずだ」と自らが課題意識をもちながら学習に向かうことができていた。また「国土の気候の特色」において、季節風や桜の開花時期の違いといった既習をもとにして、日本の各地域の気候の違いと結び付けて考察することができていた。しかし、自分の考えに自信が持てず、発表する際になると消極的になってしまう児童が多い。

また ICT 機器の活用については、「低い土地の暮らし」や「あたたかい土地の暮らし」において、単元末に Jamboard 上で Y チャートを用い、学習した暮らしの工夫をキーワードとなる項目で整理分析することができていた。しかし自分の考えを表現する際に、その考えを裏付ける資料を取捨選択することや、選んだ資料を効果的に活用する力は十分に身につけていない。

(3) 指導観 「情報活用能力育成×ICT活用」の授業づくり

重点1 情報活用能力を育むためのICT活用

- ・情報を集めるための工夫 集まった情報から考察するための工夫

本単元では、教科書で取り上げられている長崎漁港をもとに学習を進めていく。それと並行して図書やインターネット、各漁港のパンフレット資料等を活用しながら自分の選んだ地域の水産業の様子についての調べ学習を行っていく。その際に、「漁業の特徴」「輸送」「養殖」「加工」と調べる観点を絞りながら調べていく。長崎と自分の調べた地域の情報を比較し考察することで、どの地域の漁業でも、新鮮で良質な水産物を消費者に届けるための工夫がされていることに気付かせたい。

本時では水産加工品について学習する。教科書を用いて長崎漁港付近でのかまぼこ加工の様子を学習した後、自身の調べ学習としてそれぞれの地域の水産加工の様子を図書やインターネット等を通して調べる。日本全国の漁港ではそれぞれの水産物を用いた加工品が作られていることや、どの漁港でも鮮度や品質を大切にしながら、よりよい加工品を消費者のもとへ提供していることを考えさせたい。

重点2 根拠を明確にして表現するための工夫

本時のねらい：生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見出し、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。

A 根拠を見つける

<ねらいに即したゴールの姿（着地点）>

より多くの人に水産加工品をおいしく食べてもらうために、安心・安全に気を付けていたり、鮮度を大切にしておいしい加工品を作っていたよ。

- ・消費者、生産者の立場から多角的に資料を考察する。

本単元を通して、児童には水産業に関わる人々の工夫について消費者、生産者の2つの立場から考察させる。「なぜ、せりは朝5時から行われているのか」、「加工工場でいろいろな種類の加工品をつくるのはなぜだろう」と児童に考えさせることで、生産者の立場からも根拠を考えられるようになると考える。

5. 指導と評価の計画（総時数8時間）

●研究にかかわる手立て 口記録に残す評価

次	学習活動	指導（・）と評価（〔 〕）
第一次 (2) つかむ	<食生活と水産業について考え、学習問題をつくろう> 日本は世界の中でも魚介類の消費が多い国で、普段の生活の中にも魚食文化が根付いているよ。 日本の近海では暖流と寒流がぶつかり、大陸棚が多いので魚の種類が豊富でよい漁場になっているよ。 普段食べている魚はどのようにとられ、どのように運ばれてくるのだろう。	・水産業への関心を高めるとともに、普段の食生活の中にも水産加工品という形で魚食文化が根付いていることに気付かせるために、年間どれぐらいの水産物を食べているかクイズを出す。 ・水産物が食卓に届くまでの疑問から学習課題をつくっていく。 【主】①（発言・ノート）
	《日本で水産業に関わる人々はどのように魚をとり、消費者に届けているのだろう》	
第二次 (5) 調べる	<日本の漁業はどのように行われているのかな> 日本では遠洋漁業、沖合漁業、沿岸漁業がおこなわれているよ。 魚の種類に合わせて漁法を工夫したり、船員同士で協力しながら漁を行っているよ。 また、魚群探知機などの最新の機器も使いながら漁を行っていることが分かったよ。	●日本の漁業の特徴を理解するため「漁業の特徴」をキーワードにしながら調べ学習を行い、長崎の漁業と比較・分析する。 ・消費者のニーズに合わせて新鮮で様々な種類の魚を提供するために漁法を工夫していることに気付かせるために、各地の漁法を比較する。 【知・技】①（ノート）
	<水あげされた魚はどのように食卓へ届くのかな> 漁港に水あげされた魚はせりにかけられ、トラックで市場やスーパー、全国へ運ばれます。 新鮮でおいしい魚を届けるために漁港では朝早くからせりが行われ、手早く荷詰めが行われ、冷凍された状態で運ばれるよ。そうすることで、消費者が魚を買う時間に合わせて新鮮な魚を届けることができるんだ。	●日本の水産物の輸送の工夫を知るため「輸送」をキーワードにしながら調べ学習を行い、長崎の漁業と比較・分析する。 ・新鮮な魚がほしいという消費者のニーズに合わせて漁港が工夫していることに気付かせるため、せりや輸送が行われる時間に注目させる。 【知・技】②（ノート）

5. 本時の学習（第二次中4時）

（1）ねらい

生産の工程、人々の協力関係、技術の向上などに着目して、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現している。 [思考力、判断力、表現力等]（2）イ（イ）

（2）準備

Chromebook（スライド）

かまぼこ生産の写真 【長崎かんぼこ】「長崎は、おいしい。」食のPR動画（YouTube）

各水産加工会社のインタビュー資料

島谷水産（鳥取）、みのりフーズ（宮城）、山七（静岡）、シバシヨク（千葉）

マルヌシ（青森）、杉永かまぼこ（長崎）、釧路おが和（北海道）

（3）展開

●研究に関わる手立て

時	主な学習活動（○発問）と児童の意識の流れ（・思考）	指導（・）と評価（【 〽 】）※C→Bへの手立て
3	1. 本時の課題をつかむ ・今回は水産物の加工について学習しましょう。 ＜水産加工品をおいしく食べてもらうためにどのような工夫があるのかな＞	・児童が学習の見通しを持つことができるよう、学習計画の掲示を活用する。
17	2. 資料で調べる ○かまぼこを作るときにどんな工夫をしているのでしょうか。 ・鮮度や食べやすさを大切にしているんじゃないかな ・機械を使って作業しているんじゃないかな。 ・新鮮な魚を使うようにしていると思うよ。 ○かまぼこを加工する人はより多くの人においしく食べてもらうためにどんなことを大切にしているのかな。 ・新鮮な魚を使うことで、消費者にいいかまぼこを届けようとしているよ。 ・「かんぼこ王国」と名前を付けることで多くの人に知ってもらって食べてもらおうとしているよ。	・自分たちが普段食べている食の中に水産加工品が多く含まれていることに気づかせるために、導入時に様々な水産加工品の写真を掲示する。 ・かまぼこ工場での様子の写真やクリップ動画からかまぼこが作られるまでの流れや、生産過程のなかでの工夫に気づかせる。
20	3. 地域ごとに調べ、深める ○ほかの地域ではどのような工夫をしながら加工品が作られているのでしょうか。 ・どの加工品工場でも鮮度を大切に商品をお届けしようとしているよ。 ・鮮度を大切にするために漁港の近くに工場を建てている会社が多いよ。 ・消費者に安心・安全に食べてもらいたいという想いで商品を作っているよ。	●生産者の願いや想いに気づかせるため、インタビュー記事をもとに消費者にいいく食べてもらうための工夫を見つける。 ●水産物から加工品をつくる人々が長崎と同様に、新鮮な魚を使うようにしたり、品質を向上させるよう工夫や努力をしていることを理解するためインターネットやインタビュー記事で調べる。
5	4. まとめと振り返りをする 水産加工品をおいしく食べてもらうために、安心・安全に気を付けていたり、鮮度を大切にしておいしい加工品を作っていたよ。 ・日本のどの漁港でも生産者はよりよい加工品を消費者に届ける工夫をされていてすごいと思いました。 ・生産者からのメッセージから、日本人がこれまで受け継いできた魚食文化の大切さがわかりました。これからも魚を食べて、日本の文化を伝えていきたいです。	・どの地域でも水産物の加工にかかわる人々は工夫や努力をしながら加工品を作っていることを理解するために長崎漁港と他の漁港の水産加工の工夫について比較・考察する。 【思・判・表】① 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上などに着目して、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現している。（ノート） ※他のグループの発表や長崎のかんぼこ加工の様子の共通点から加工に関わる人々の工夫や努力を考えるように声かけする。

指導・助言（石川県教育委員会 金沢教育事務所 瀬古 雅大 指導主事より）

（１）重点１ 情報活用能力を育むための ICT 活用

・「おいしさ」をキーワードにすることで必要な情報を抜き出すことができた

児童に「工夫を見つけてごらん」と聞くと、児童は出てくる情報の全てを工夫と捉えてしまいがちになる。本時では、教師が事前に「おいしく食べてもらうための工夫」であるという点をおさえていたのが良かった。また教師が「おいしさにどうしてつながるの？」と、問い返しをすることで、児童は「鮮度」や「安全性」という視点に気付くことができていた。「おいしさ」という、主観の入った視点を「鮮度」「安全性」という共有して話し合える視点に焦点化したことで、児童は既習と関連付けて話し合うことができ、学びを深めることができていた。

（２）重点２ 根拠を明確にして表現するための工夫

・「どの資料からそう考えたのか」と問い返すことで根拠や理由を見つけられる

本時でインタビュー資料を活用する場面では、「自分の地域にも鮮度や安全の工夫はあるかな？」「それ以外の工夫はあるかな？」と視点をもたせて読み取りをさせると良い。「どの資料からそう考えたの」と問い返すことで根拠を明確にして考えを表現する力が高まると考えられる。

・「なぜ生産者は～することを大切にしているのかな。」問うことで生産者の思いに迫ることができる

本時は扱う内容が多いので、次時の、「水産業の課題」と関連付けて扱うと良い。「なぜ水産加工品の生産者は、高品質にすることや希少価値をつけることを大切にしているのかな。」と問いかけることで、「生産者はより多くの消費者に食べてもらおうとしているのだ。」「日本の水産物の消費量を上げようと努力しているのだ。」と生産者の工夫や努力を考えることで、思いに迫る展開になると考えられる。

（３）その他

・資料を選ぶ際には、授業のねらいをふまえ、資料の数や内容を精選する

資料を選ぶ際には、授業のねらいをふまえ、資料の数や内容を精選すると良い。単元や授業を通して、児童にどんな力をつけさせたいかを考え、資料を決めていくと良い。

・ずれを感じさせる導入から単元を貫く学習問題をつくる

単元導入の学習問題づくりでは、児童に問いを持たせるために驚きや感動を感じさせたり、ずれを意識させたりすると良い。ずれを感じさせる方法としては、「児童と教材とのずれ」、「教材と教材のずれ」、「児童と児童とのずれ」を生かす方法がある。しかしそこで生まれた疑問が、単元を貫く課題になるとは限らない。疑問をもとに、「どうすればその疑問を解決できるか」、「何を調べる・何が分かると問題解決につながりそうか」と考えることで、単元を貫く学習問題をつくったり、見通しを持たせたりすることができる。具体的な事実に関する知識を習得する場面と、社会的事象の特色や意味などを考える場面の関連付けを図るなど、学びを深める学習を設計してほしい。

6年3組 国語科学習指導案

日 時：令和4年 9月27日（火）第2限

授業者：中川 輝陽

場 所：3階6年3組教室

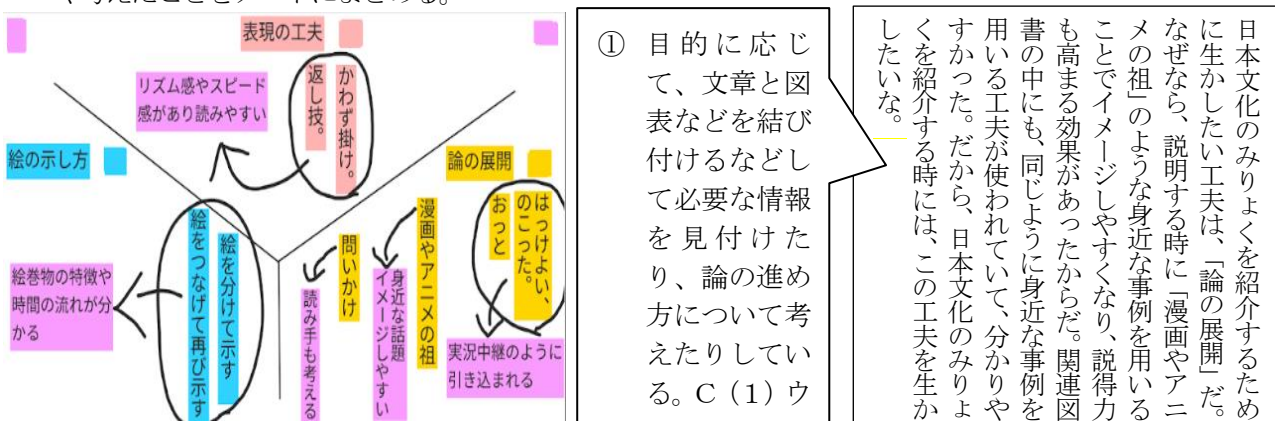
1. **単元名** 筆者の論の進め方や表現の工夫について、分かったことや考えたことをまとめよう
(教材名) 『鳥獣戯画』を読む

2. 単元の目標

- ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 【知識及び技能】(1) ク
- ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】C (1) ウ
- ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3. 単元で取り上げる言語活動と評価規準

- ・ 筆者が主張を適切に伝えるために、どのような論の進め方や表現の工夫を用いたのかを捉え、分かったことや考えたことをノートにまとめる。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1) ク	① 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。C (1) ウ	① 粘り強く論の進め方について考え、学習の見通しをもって、分かったことや考えたことを文章にまとめようとしている。

4. 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、『鳥獣戯画』を読むを筆者の表現の工夫を捉えて読む単元である。単元のゴールでは、『鳥獣戯画』を読むで筆者の論の進め方や表現の工夫を見つけて、分かったことや考えたことをノートにまとめるという言語活動を行う。その際、関連図書の文章と比較しながら読ませていくことで、自分が書く時に生かしたい工夫について考えさせることができる。

教材文は、筆者の主張を伝えるために、資料提示や言葉の使い方など様々な表現の工夫がなされている。筆者のものの見方や考え方を読み取ったり、論の進め方や表現の工夫、その効果について学習させたりするのに適した教材である。

(2) 児童観

第5学年「生活の中で詩を楽しもう」では、短詩の中に取り入れられている比喩や反復などの表現の工夫について考える学習をした。豊かに想像を膨らませながら、身近なものに例える比喩表現や、言葉を繰り返す反

復表現を用いてカードに書き留めるなど、詩を楽しむ様子が見られた。

第6学年「時計の時間と心の時間」では、筆者の主張や意図を捉えて読む学習をした。書き手の述べたいことを知るために読むなどの目的に応じて、情報を取捨選択したり、整理したり、再構築したりするなど、必要な情報を見付ける力はまだ十分とは言えない。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にさせる必要がある。また、論の進め方については、4つの事例を用いることで説得力が高まることを多くの児童が理解できていた。その際、「事例が1つだけだったらどうか」や「事例の順序が入れ替わったらどうか」ということを考えさせた。そうすることで、筆者が自分の主張を読み手に伝えるために、確かめやすい事例から示すなど、論の進め方を工夫していたことにも多くの児童が気づくことができていた。

国語科での学習では、学習計画をもとに進めることで、多くの児童が見通しをもって授業に臨むことができている。学習課題も概ね、自分たちの力で作ることができている。

第6学年「私たちにできること」では、SDGsをテーマに総合的な学習の時間と関連づけて学習を行った。その際、情報を整理・分析するためにChromebookを活用した。ピラミッドチャートや座標軸などの思考ツールとJamboardを合わせて活用したことで、集めた材料を分類整理し、伝えたいことを明確にすることができていた。

(3) 指導観 「情報活用能力育成×ICT活用」の授業づくり

重点1 情報活用能力を育むためのICT活用

- ・情報を整理・分析するための工夫

本単元では、『鳥獣戯画』を読むで筆者の論の進め方や表現の工夫を見つけて、分かったことや考えたことをノートにまとめていく。情報を見付けたり論の進め方を考えさせたりする際は、Jamboardやオクリンクを用いて付箋や線で色分けすることで、構成や工夫点を視覚的に把握できるようにしていく。

本時では、オクリンクを活用する。これからの学習において、筆者の説明の工夫を生かして書いていくために、見つけた工夫点を整理したり、工夫点の効果について分析したりしていく。その際、思考ツールや色分けを用いることで、たくさんの情報を効果的に整理したり分析したりできると考える。

重点2 根拠を明確にして表現するための工夫

本時のねらい：目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。

- C 根拠や理由を明確にして考えを発信する

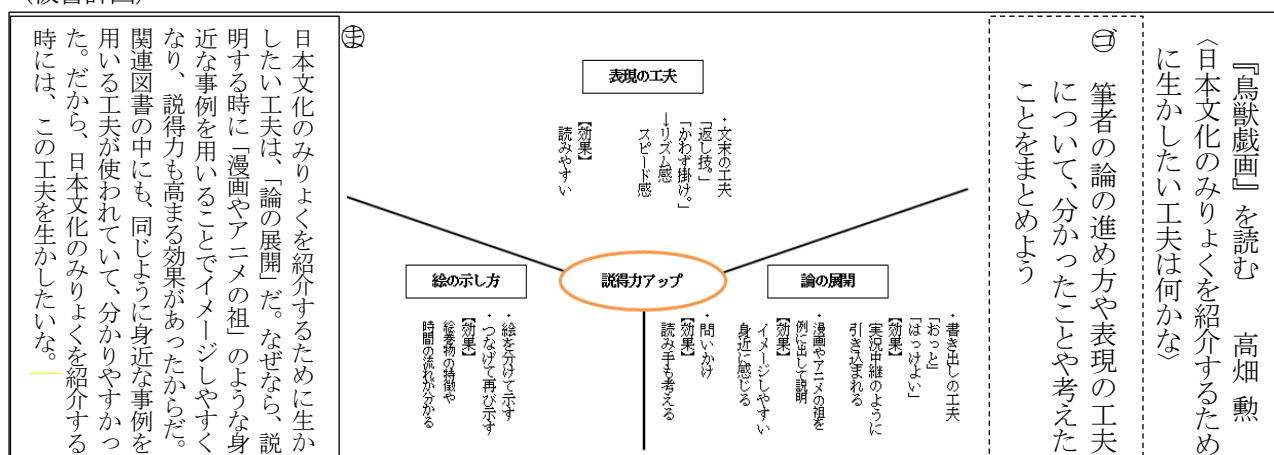
くねらいに即したゴールの姿(着地点) >

日本文化のみりよくを紹介するために生かしたい工夫は、「論の展開」だ。なぜなら、説明する時に「漫画やアニメの祖」のような身近な事例を用いることでイメージしやすくなり、説得力も高まる効果があったからだ。関連図書の中にも、同じように身近な事例を用いる工夫が使われていて、分かりやすかった。だから、日本文化のみりよくを紹介する時には、この工夫を生かしたいな。

- ・思考ツールの活用

Yチャートを用いて、「論の展開」「表現の工夫」「絵の示し方」のそれぞれの工夫点や効果を整理・分析していく。授業の終末には、高畑さんは自分の考えを適切に伝えるために、どのような論の進め方や表現の工夫をしているのか、整理した情報をもとにして分かったことや考えたことをノートにまとめさせていきたい。

(板書計画)



5. 指導と評価の計画（総時数5時間）

●研究にかかわる手立て □評価

次	学習活動	指導（・）と評価（【□】）
第一次 ①	<どんな学習をするのかな> 私は、蛙と兎のケンカだと思っていたけれど、高畑さんは相撲でかわず掛けだと述べていた。『鳥獣戯画』を読むの中には、高畑さんが考える鳥獣戯画のみりよくを伝えるための工夫点がたくさんありそうだ。これから、高畑さんの伝えたいことを深く知ったり、日本文化のパンフレットを書いたりするためにも、論の進め方や表現の工夫について考えながら、くわしく読んでいきたいな。	・筆者のものの見方や表現の工夫に気づかせるために、初めに『鳥獣戯画』の1枚目（P141）の挿絵を用いて自分なりの解説文を書かせる。 ●高畑さんが用いる工夫について、児童の言葉から「論の展開」「表現の工夫」「絵の示し方」の3つの視点として押さえる。
	《筆者の論の進め方や表現の工夫について、分かったことや考えたことをまとめよう》	
第二次 ②	<高畑さんは、絵のどこに着目しているのかな> 高畑さんは、「鳥獣戯画は、国宝であるだけでなく、人類の宝」とであると主張している。その主張を伝えるために、高畑さんは、絵の蛙や兎の口など、一部分を取り上げ、その一部分の形や大きさ、色、格好などに着目していた。	●比喻や反復などの表現の工夫に気づかせるために、表現の工夫が書かれている文章には赤線を、絵には赤丸で囲ませて、それらが対応するように線で結ばせる。 ●評価の部分を視覚的に捉えさせるために、叙述に青線を引かせる。
	<高畑さんは、着目したところをどのように表現しているのかな> 高畑さんは、着目したところを「まるで～みたい」のように別のものに例える比喻表現をたくさん使って表現していた。また、絵を用いて説明や評価を繰り返したり、「返し技。」や「かわず掛け。」のように文末表現を工夫したりすることで、鳥獣戯画のもつみりよくを伝えていた。	【知・技】①（1）ク （Jamboard、ノート、発言）
第三次 ③	<高畑さんは、鳥獣戯画のみりよくを伝えるために、どのような工夫をしているのかな> 高畑さんは、鳥獣戯画のみりよくを伝えるために、「はつけよい、のこった」や「返し技。」「漫画やアニメを例に出すこと」、「絵を分けて示すこと」などの工夫していた。友だちが発表していたように、『鳥獣戯画』を読むの中には、他にもたくさんの工夫が使われていた。	・関連読書を進めていく。 ●工夫点を一般化するために、児童の発言を短冊に整理しながら、板書に位置付けていく。 ●筆者が用いた構成や表現の工夫、効果などの情報を整理させるために、オクリンク上のYチャートを用いて視点ごとに色分けして簡潔な文で書かせる。
	<日本文化のみりよくを紹介するために生かしたい工夫は何か>（本時） 日本文化のみりよくを紹介するために生かしたい工夫は、「論の展開」だ。なぜなら、説明する時に「漫画やアニメの祖」のような身近な事例を用いることでイメージしやすくなり、説得力も高まる効果があったからだ。関連図書の中にも、同じように身近な事例を用いる工夫が使われていて、分かりやすかった。だから、日本文化のみりよくを紹介する時には、この工夫を生かしたいな。	【思・判・表】①C（1）ウ （オクリンク、ノート、発言） 【主】① （ふり返りの記述）

6. 本時の学習（第二次中4時）

（1）ねらい

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] ①C（1）ウ

（2）準備 Chromebook（オクリンク上のYチャートシート）、鳥獣戯画挿絵、既習掲示

（3）展開

●研究にかかわる手立て

時	主な学習活動（○発問）と児童の意識の流れ（・思考）	指導（・）と評価（【 〓 】） ※C→B への手立て
5	1. 課題をつかむ ○前回までにたくさんの工夫が見つかりましたね。では今から、生かしたい工夫について考えをまとめることはできそうですか。 ・このままの状態を書くには、情報が多すぎて難しそうだ。見つけた工夫をどのように生かしていくか考えるためにも、情報を整理する必要があるな。	・課題意識を持たせるために、高畑さんの用いた工夫には、どのようなものがあつたのか既習掲示をもとに確認させる。
10	2. 自分の考えを持つ ○まずは、見つけた工夫をオクリンクのYチャートを使って整理しましょう。整理が終わったら、その工夫は読み手にどんな効果を与えていたのか考えてみましょう。 ・漫画やアニメの話題を出していた。 →「論の展開」 ・「返し技。」など、体言止めをたくさん使っていた。 →「表現の工夫」 ・つながっている絵を2つに分けて示していた。 →「絵の示し方」	●筆者が用いた構成や表現の工夫、効果などの情報を整理させるために、オクリンク上のYチャートを用いて視点ごとに色分けして簡潔な文で書かせる。
20	3. 考えを交流し、深める ○自分が生かしたい工夫について、お互いの意見を交流しましょう。 ・私が生かしたい工夫は、P144の「漫画やアニメの祖」という言葉です。なぜなら、漫画やアニメのように、身近な話題を出すことで、イメージしやすくなる効果があつたからです。 →「論の展開」 ・私が生かしたい工夫は、P142の「返し技。」という表現です。なぜなら、文末表現を工夫することで、読み手をひきつけたり、テンポよく読ませたりする効果があつたからです。 →「表現の工夫」 ・私が生かしたい工夫は、P146の一度出した絵をつなげて再び示す工夫です。なぜなら、P143とP145で分けた絵を再び示すことで、時間の流れがより伝わる効果があるからです。 →「絵の示し方」 ◎関連図書でも高畑さんと同じような工夫や異なる工夫で、パンフレットを書く時に生かしたい工夫はありましたか。 ・私が選んだ本にも、高畑さんと同じように絵の示し方の工夫が使われていました。強調したい部分を文字だけでなく、写真と結びつけて説明することで説得力が高まる効果がありました。だから、パンフレットを書く時に生かしたいと思いました。	●理由の根拠を明確にするために、教科書のどこに書かれているのかを問う。 ●生かしたい工夫を考えさせるために、グループで関連図書を見ながら共通点や相違点をもとに話し合わせる。 ●ふり返りの場面では、「単元を通して高畑さんの論の進め方についての自分の考えがどう深まったか」や「つけた力をこれから読むときにどう活用したいか」などの視点を与えて書かせる。
10	4. まとめと振り返りをする。 日本文化のみりよくを紹介するために生かしたい工夫は、「論の展開」だ。なぜなら、説明する時に「漫画やアニメの祖」のような身近な事例を用いることでイメージしやすくなり、説得力も高まる効果があつたからだ。関連図書の中にも、同じように身近な事例を用いる工夫が使われていて、分かりやすかつた。だから、日本文化のみりよくを紹介する時には、この工夫を生かしたいな。 ・1時間目に自分なりの解説文を書いたように、今までは、「相撲をしている」など絵から読み取れることぐらしか書くことができなかった。これからは、この勉強で学んだように、伝えたいことを効果的に伝えるために、書き出しや文末の工夫を取り入れていきたい。	【思・判・表】①目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。C（1）ウ（オクリンク、ノート、発言） ※自分が書く際に真似したいと思う表現の技や構成の技を探すように助言する。 【主】①粘り強く論の進め方について考え、学習の見通しをもって、分かったことや考えたことを文章にまとめようとしている。（ふり返りの記述） ※日本文化のパンフレットを書く見通しを意識させて考えがもてるようにする。

6年3組 国語科 単元名 「筆者の論の進め方や表現の工夫について、

分かったことや考えたことをまとめよう」 授業者 中川 輝陽

指導・助言（石川県教育委員会 金沢教育事務所 川辺 有紀 指導主事より）

（１）重点１ 情報活用能力を育むための ICT 活用

・整理分析するためには視点を明確にして思考ツールを活用する

本時では、児童も教師も「パンフレットを書くために情報を整理する必要がある」という目的意識は弱かったものの、考えをまとめるために児童が自ら Y チャートを選択していた。普段から思考ツールをよく使用しているため、児童は日常的に効果を実感しているのではないかと。授業の終末時にも、オクリンク上の Y チャートを見ながらまとめを書く児童の姿が見られた。

一方で、Y チャートに示した「表現の工夫」「論の展開」「絵の示し方」の３つの視点については、教師も児童も視点が曖昧だったため共通理解が必要である。パンフレットの構成を検討するための「論の展開」、写真や図の入れ方を検討するための「絵の示し方」、書き表し方を工夫するための「表現の工夫」と、書くための視点である。本時では、短冊カードを整理する部分に多くの時間を費やしたが、効果について話し合うためにも視点の共通理解が大切である。指導と評価は「読むこと」だが、児童の目的意識は「書くこと」につなげる方が自然である。

（２）重点２ 根拠を明確にして表現するための工夫

・学習計画掲示の必要性

導入時、板書内で筆者の主張や単元のゴールを確認したことで多くの時間を費やした。学習計画の掲示が教室にあることで、短時間で効果的に目的の想起や見通しをもたせることができる。

・前時の短冊カードを活用することが学びの積み上げにつながる

前時までに見つけた工夫や叙述を短冊カードにまとめたものを本時で活用する展開が良かった。短冊カードを板書にも位置づけ、問い返しを繰り返しながら効果を付け加えていることから、前時から学びの積み上げを感じさせることができる。第一次の単元導入時に自分なりの解説文を書かせていることも、筆者の工夫を見つけるといった読む必要性を高めることにつながっていた。

・「どうしてその工夫を使いたいのか」と問い返すことで理由が明確になる

本時では導入をコンパクトにできていれば、関連図書をもう少し読む時間を作ることができた。そうすることで、より根拠を確かにすることができたと思われる。まとめの場面では、児童の「〇〇の工夫を使いたい」という発言に対して、「どうして使いたいのか」と問い返すことで、理由をはっきりさせたり、根拠を明確にしたりすることにつなげることができる。

（３）その他

・「読むこと」でも言語活動が設定され読むことの指導と評価が一体化した事例である

7 月末の文部科学省教科調査官の講義より、「書くこと」と「読むこと」の複合単元から、「読むこと」の単元として扱うことになった。国語科は領域を中心として学習を進める。複合単元にすることで「読むこと」の言語活動が設定されていないことが多く「読むこと」の力を「書くこと」で評価することになってしまっていた。今回は、資質・能力を育成する単元構成になっており、「読むこと」でも言語活動をしっかりと設定して、指導と評価の一体化ができていた。好事例として紹介したい。

・前向きな学習集団を育てる言葉かけ

児童の考えをうまくさばいていた。児童が「Y チャートのどれにも入らない」と発言した場面では、教師が「それはそれで聞きたいな」と前向きな言い方をしていた。また、児童から出てこなかった工夫も教師が取り上げていた。1 つ 1 つの活動に対して児童の行動が早く、前向きな学習集団であった。

今後に向けては、教室全体をしっかりと見て、児童のつぶやきを挙手につなげると良い。挙手が少ない場面でも、効果的にグループを活用し話し合いを通じて課題を解決させると良い。

図書館利用年間計画

*各学年 年1回外部講師による読み聞かせ等

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月									
1年	単元		おはなし たのしいな		くちばし	としょかん となかよし		うみの かくれんぼ	いきもの となかよし	たのしい あきいっぱい		じどう車 くらべ		むかしばなし をよもう		どうぶつの 赤ちゃん	ずうっと、ず っと、大すきだ				
	図書館活動	オリエンテーション	読み聞かせ		関連読書	読書活動		関連読書	生活科	生活科		関連読書		関連読書		関連読書	読書活動				
	学習活動 本の選び方	ルール・マナー 貸出の仕方 読書ノート	読み聞かせを 聞いて楽しもう		生き物につ いて説明して いる文章を読 もう	読みたい本を 選ぼう		読んで確かめ よう	捕まえた虫の 餌やすみか について調べ よう			説明する文章 を読もう		読んだ昔話に ついて、好き なところを紹 介しよう		比べて読もう	選んで感じた ことを話そう				
2年	単元		ふきのとう	いなばの白 うさぎ	ぐんぐん育 てわたしの野菜	生きものな かよし大作せん	スイミー	本は友だち		どうぶつ園の じゅうい		お手紙		馬のおもちゃ の作り方		わたしは おねえさん	おにごっこ		スーホの白い 馬		
	図書館活動	オリエンテーション	並行読書	関連読書	生活	生活	並行読書	関連読書		並行読書		並行読書		関連読書		並行読書	関連読書		関連読書		
	学習活動 分類	1年の内容＋本 の分け方 並べ方	お話を読み 役に分かれて 音読しよう	聞いて楽しもう	これから育 てる野菜につ いて調べよう	これから飼育 する生き物に ついて調べよ う	お話を読ん で、紹介しよ う	お気に入りの 本を紹介しよ う		読んで考えた ことを話そう		想像したことを 音読劇で 表そう		説明の仕方に 気をつけて読 みそれをいか して読もう		自分と比べて 感想を書こう	大事な言葉に 気を付けて読 み分かったこ とを知らせよう	読んで感じた ことを伝え合 おう			
3年	単元		きつつきの 商売	こまを楽しむ	引用するとき	植物を 調べよう	まいごのかぎ	仕事のくふう 見つけたよ	本は友だち		ちいちゃん のかげおくり		食べ物のおひ みつを教えます	三年とうげ		詩のくふうを 楽しもう	ありの行列		市のうつりか わり		モチモチの木
	図書館活動	オリエンテーション	並行読書	並行読書		理科	並行読書	並行読書	読書活動		並行読書		並行読書	関連読書		関連読書	関連読書	社会		関連読書	
	学習活動 目次・索引	1年の内容＋目 次・索引	読んで想像し たことを伝え 合おう	段落とその中 心をとらえて 読み感想を伝 え合おう	著作権、引用 について	いろいろな植 物を調べよう	登場人物の変 化に気をつけ て読み、感想 を書こう	報告する文章 を書こう	はじめて知 ったことを知 らせよう			場面を比べな がら読み、感 じたことをま とめよう		例の書かれ方 に気をつけて 読み、それを いかして書こう	組み立てを とらえて民話 を紹介しよう		詩の楽しみ方 を見つけよう	読んで感想を もち、伝え合 おう	道具とくらし のうつりかわ りを調べよう		登場人物につ いて、話し合 おう
4年	単元		白いぼうし	本は友だち	アップとルー ズで伝える	一つの花	新聞を作ろう	本は友だち		ごんぎつね	ヒトの体のつ くりと運動		伝統工芸のよ さを伝えよう	百科事典での 調べ方	ブラタナスの 木	ウナギのなぞ を追って			もしものとき にそなえよう	伝統や文化を 大切にする輪 島市	初雪のふる日
	図書館活動	オリエンテーション	関連読書	読書活動	並行読書	関連読書	調べ学習	読書活動		並行読書	理科		調べ学習		並行読書	並行読書	関連読書	調べ学習	社会科	並行読書	
	学習活動 百科事典	1年の内容＋調 べ学習の仕方 (奥付やテーマ の絞り方)	場面と場面を つなげて、考 えたことを話 そう	図書館の達人 になろう	筆者の考えを とらえて、自 分の考えを 発表しよう	場面の様子を くらべて読み 、感想を書 こう	事実を分か りやすくほう くしよう	事実にもと づいて書かれた 本を読もう			気持ちの変 化を読み、考 えたことを話 し合おう	いろいろな動 物の体のつ くりを調べ よう		中心となる語 や文を見つ けて要約し、 調べたこと を書こう		登場人物の 変化を中心 に読み、物 語をしょう かいし よう	きょうみをも ったことを中 心に、し ょうかい しよう	自分だけの詩 集をつくろう	考えたことを 書き、読み合 おう	特色ある土地 の様子につ いて調べ よう	読んで感じた ことをまとめ 、伝え合 おう
5年	単元		なまえつけて よ	言葉の意味が 分かること	人のたんじょう	みんなが過 しやすい町へ	作家で広げ るわたしたち の読書	米作りが 盛んな地域	台風と気象情 報	水産業の さかんな地域		たずねびと		グラフや表を 用いて書こう		やなせたかし アンパンマン の勇氣	生活の中で詩 を楽しもう		この本、おす めします	大造じいさん とガン	
	図書館活動	オリエンテーション	並行読書	並行読書	理科	調べ学習	読書活動	社会科	理科	社会科		並行読書		調べ学習		関連読書	関連読書		読書活動	並行読書	
	学習活動 著作権	1年の内容＋統 計資料	登場人物どう しの関わりを とらえ、感想 を伝え合おう	文章の要旨を とらえ、自分 の考えを 発表しよう	ヒトの誕生に ついて調べ よう	調べたことを 正確に報告し よう	作家を中心 に本を紹介し 合おう	米作りにつ いて調べ よう	台風につ いて調べ よう	漁業につ いて調べ よう		物語の全体像 をとらえ、考 えたことを伝 え合おう		資料を用いた 文章の効果を 考え、それを 生かして書 こう		伝記を読んで 、自分の生 き方につ いて考え よう	詩の楽しみ方 を見つけよう		相手や目的を 明確にして、 推薦する文章 を書こう		すぐれた表現 に着目して、 物語のみりよ くをまとめ よう
6年	単元		帰り道	時計の時間と 心の時間	朝食のメ ニュー	私と本	戦国の世から 天下統一へ	私たちにでき ること		みんなで楽し く過ごすた めに	太陽と月の形	やまなし	大地のつくり	日本文化を発 信しよう		長く続いた戦 争と人々のく らし		メディアと人間 社会	海の命	日本とつなが りの深い国々	
	図書館活動	オリエンテーション	並行読書	並行読書	家庭科	読書活動	社会科	調べ学習		調べ学習	理科	並行読書	理科	関連読書		社会科	関連読書	並行読書	並行読書	社会	
	学習活動 情報収集	1年の内容＋情 報の集め方	視点の違いに 着目して読 み、感想をま とめよう	筆者の主張や 意図をとらえ 、自分の考え を発表しよう	朝食に適した メニューの提 案しよう	自分と本の関 わりについて 考えよう	3人の武将に ついて調べ よう	具体的な事実 や考えをもと に、提案する 文章を書こう		目的や条件に 応じて、計画 的に話し合 おう	太陽と月の形 について調べ よう	作品の世界を とらえ、自分 の考えを書 こう	地層や地震・ 火山につ いて調べ よう	表現の工夫を とらえて読 み、それをい かして書 こう		戦争について 調べよう	詩を朗読して しょうかいし よう	筆者の考えを 読み取り、社 会の生き方につ いて話し合 おう	登場人物の関 係をとらえ、人 物の生き方につ いて話し合 おう	米・中・韓… について調べ よう	